

# 女性保護対策協議会 報告



平成 25 年 7 月 27 日（土）、**「災害と女性～女性の視点で考える防災～」**というテーマで NPO 法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ代表理事の**正井礼子さん**を講師に講演会を開催しました。現地に赴き、避難所における女性支援のため、現場の生の声を吸い上げてこられた正井さん。女性のために本当に必要な支援は何か。それにはまず避難所の運営責任者やリーダーに女性も参画すること。防災は平時からの取り組みが大切。**「この講演を聴いているみなさんが、ぜひ災害時の避難所のリーダーになってください」と、熱い思いで講演を締めくくられました。**

NPO 法人  
女性と子ども支援センター  
ウィメンズネット・こうべ  
代表理事 正井礼子さん

**この講演を聴いているみなさんが、ぜひ災害時の避難所のリーダーになってください」と、熱い思いで講演を締めくくられました。**

## 1. 阪神・淡路大震災で浮き彫りになった女性問題

- ・「女性に対する暴力」が問題とされなかった—シェルターの不足 性暴力への対策の不備
- ・「被災地の人権」に女性の人権が含まれていなかった

## 2. 震災後「女性支援ネットワーク」をたちあげて

- ・物資の配布—洗濯機 自転車 バイク
- ・「女性のための電話相談」開設—女性の立場にたちます

## 3. 避難所がかかえる問題—女性が運営に参画していなかった

- ・運営責任者やリーダーが男性主体であった
- ・女性のニーズが考慮されていなかった

## 4. 「女性のための電話相談」から見たこと

- ・夫・恋人からの暴力に苦しむ声
- ・孤立感、無力感に苦しんでいる

## 5. 災害時における女性と子どもへの暴カ—ドメスティック・バイオレンス、性暴力

- ・「災害時に女性への暴力が増加する」ことを予測し、防災と復興支援に「女性に対する暴力防止」を組み入れるように、全米の危機管理機関へ発信した
- ・仕事や住居がないため、ひどい暴力があっても我慢するしかないと思っている



## 6. 防災や復興対策に女性の参画を！—意志決定の場に女性を

- ・ 防災マニュアルに女性のリーダーを最低3割と具体的に記載しておくこと
- ・ 救援・復興体制の構築に女性の能力を活かす—支援の責任者に登用する

## 7. 復興に関する政策決定に女性が全く関わっていないか、関われないのは何故か？ 検証すべきこと

- ・ 国や被災地の復興会議などに女性の参画がゼロかあまりに少ない現状
- ・ 女性復興会議をつくる。男性の目に見えなくて、女性の目には見えることがたくさんある。男性中心の会議のなかで、なかなか女性のニーズが浮かび上がってこない

## 8. 防災は日常から始まる—女性が結婚してもしなくても一人でも安心して暮せる社会

- ・ 女性が日頃から、まちづくりなど、意思決定の場にどれだけ参画できているか？
- ・ 日常的な場での官民における「女性に対する暴力」防止・被害者支援のネットワークづくり

講演の後、参加者と意見交換をしました。



# アンケートより

これまで災害時には、女性が冷遇されてきた実態が明らかなのに、なぜこれが改善されないのか。女性のリーダーの必要性についてもっと声を上げていかなければならないと思った。

また、性被害のない安全で安心な避難所作りも大事。男性の意識が変わらなければ何も変わらないと思う。

(60代男性)

自分が女性でありながら、女性の視点で災害を考えていなかったと反省した。女性同士助け合わなければと自覚した。リーダーシップが取れる女性を育てる必要性を感じた。自立支援活動をしているので、今日のお話を参考に、よくニーズを聴き、未永く女性の視点で続けていきたい。(60代女性)

女性が声をあげることの大切さ、それを集約し、責任者に声を届ける。何度も届けることが重要だと思った

(50代女性)

被災地の女性に対する暴力の現状を聞き、現場における人間の心理の怖さを知ることができた。女性の声を届けるには女性がタッグを組んで行動する。要望を届けるには個人の力は弱い。声は一度ではなく届くまで要望していこう。そんなことも大切であることを学ぶことができた。(70代女性)



## 市民活動支援事業助成金を受け実施したこの事業についての 反省点や成果



### 準備過程をふりかえって (苦勞した点や広報活動を進めるうえで工夫した点など)

- ◆ 広報活動として、チラシを作成した。案内文(依頼)とともに、当会賛助会員や女性団体等に参加の依頼をした。
- ◆ 女性防火クラブに呼び掛けたことは、よかった。
- ◆ 公民館・地域の防災の方に声かけしたが、関心が低く参加していただけなかった。
- ◆ 若い防災関係者にもっと声かけすべきだったと、反省している。
- ◆ 申し込みをされた方が、当日欠席されたことが、残念だった。内容のある話だけに、より多くの参加者に聴いてほしかった。
- ◆ 夏休みに入っていたため、人集めが難しかった。
- ◆ 個人的なつながりでの人集めに、限界を感じた。組織としての連携等今後、考えたい。

### 当該事業を実施しての成果

- ◆ DV・防災について、深い学びになった。
- ◆ 被災体験のある講師・実際に東日本大震災後、被害女性支援のため現地へ行かれた体験を基にした講師の話から、今後、私たちが考えていかなければならないことを再認識することができた。
- ◆ 弱い立場の子ども・女性の人権の問題を「災害」という視点から考えることができた。
- ◆ コムズの職員の方にご協力いただき助かりました。細かいアドバイス等、ご配慮に感謝します。

